

## 令和4年度第9回霞ヶ浦自然観察会実施結果

**日 時：**令和5年1月15日（日） 10時～12時

**テーマ：**湖畔の野鳥観察 ー冬の渡り鳥を探してー

**場 所：**霞ヶ浦総合公園（茨城県土浦市大岩田）

**講 師：**川崎慎二先生（雪入ふれあいの里公園所長・日本野鳥の会茨城県幹事）

**内 容：**

マガモ、コガモなど霞ヶ浦で越冬する渡り鳥の生態について観察します。バードウォッチングが初めての方でも観察しやすい水鳥を中心に、カモ類のほか、サギ類やカモメ類など冬の霞ヶ浦で見られる鳥類を観察しながら、霞ヶ浦の環境について考えてみます。

**参加者：**24名

**担当職員：**5名

**パートナー：**2名

**結 果：**

霞ヶ浦総合公園のネイチャーセンター前に集合し観察会を開会しました。講師の川崎先生から、霞ヶ浦の冬に見られる野鳥についてお話があった後、さっそく観察会です。まず、鳥を見る前に双眼鏡の使い方についてレクチャーしていただきました。また、フィールドスコープについても説明がありましたが、川崎先生がスコープの接眼レンズに装着するアダプターを工夫して、スマートフォンでみんなで鳥を見ることができるようになりました。

観察会は、ネイチャーセンター下の水生植物園からスタートし、水辺広場まで移動しながら観察しました。最後に公園の北側に位置する備前川の水門の近くで、水鳥たちを間近に観察することができました。川崎先生ご指導ありがとうございました。

観察会全体を通して29種類の野鳥を観察することができました。川崎先生から解説していただいた主な野鳥とその観察のポイントは以下のとおりです。

**コサギ**・・・全員で最初に観察した鳥。シラサギという名前の鳥はおらず、体の大きさによってダイサギ、チュウサギ、コサギと種類が分けられています。足の指が黄色いのが特徴で、

餌をとるときは、水中でこの黄色い足指を震わせ、泥や水草の中から驚いて出てきた小魚などを捕まえます。

コガモ・・・カモのなかまは警戒心が強いのですが、この公園にいるカモは、人の存在に慣れているのか、木道わきの湿地で、双眼鏡が必要ないくらいの近さで餌を捕るなどの自然な姿を見せてくれました。

セグロカモメ・・・ふだんは海にいたので内陸の湖で見かけるのは珍しいです。成鳥が一羽だけ見られました。黄色いくちばしの先に赤い斑点があるのが特徴。ひなは餌をねだるときに、親鳥のこの赤い斑点をつつくといわれています。

ユリカモメ・・・「入り江カモメ」がなまってユリカモメになったともいわれており、川伝いに内陸の湖などにも数多く入ってきます。真っ白な体に赤いくちばしのコントラストがユリの花を思わせ t¥るから、との説もあります。赤いくちばしは大人の印で、若いユリカモメはくすんだ黄色をしています。

マガモ・・・カモのなかまはオスが美しい羽色をしているのに対して、メスは大変地味な羽色です。マガモのオスとメスが並んで休んでいたのも、その区別がしやすかったです。初めて見た人は全く別の種類の鳥とってしまいます。

カワウ・・・参加者の方から、顔が白くなっているのはなぜですか？という質問がありました。これは繁殖期に現れる特有の羽で、繁殖年齢に達した大人であることを表していて、オスもメスも同じように白くなります。

また、鵜飼いに使われるのはウミウでカワウではありません。

ツグミ・・・代表的な冬鳥ですが、今年は数が少ないようです。ハンノキの枝にとまっているツグミを、スコープにつけたスマホでみんなで観察しました。特徴である胸から腹にかけての黒い斑点がきれいだったという声が聞かれました。

その他の観察できた鳥・・・キジ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キジバト、ドバト、バン、オオバン、ミサゴ、トビ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリ、アカハラ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、オオジュリン

# 第9回霞ヶ浦自然観察会



開会式 双眼鏡の使い方のレクチャー



川崎先生がスコープをスマホで見せてくれる



観察会のようす1



観察会のようす2



観察できた鳥1 コガモ



観察できた鳥2 セグロカモメ



観察できた鳥3 ツグミ



観察できた鳥4 コサギ